

世界が進むチカラになる。



# 米国景気概況(2024年8月)

2024年8月5日

調査部 主任研究員 細尾 忠生

# 景気は底堅い

米国経済は底堅く推移している。4-6月期の実質GDP成長率(速報値)は前期比年率2.8%と、8期連続でプラス成長となった。個人消費、設備投資、政府支出、輸出が堅調であったほか、在庫投資が0.8%ポイント成長率を押し上げた。一方、企業の景況感を示すISM景況指数は、製造業、非製造業とも判断の目安となる50の水準を下回った。先行き、個人消費がこれまで好調に推移した反動などで弱含むとみられるが、全体として景気は底堅く推移する見通しである。

## 実質GDP

(前期比年率、%)

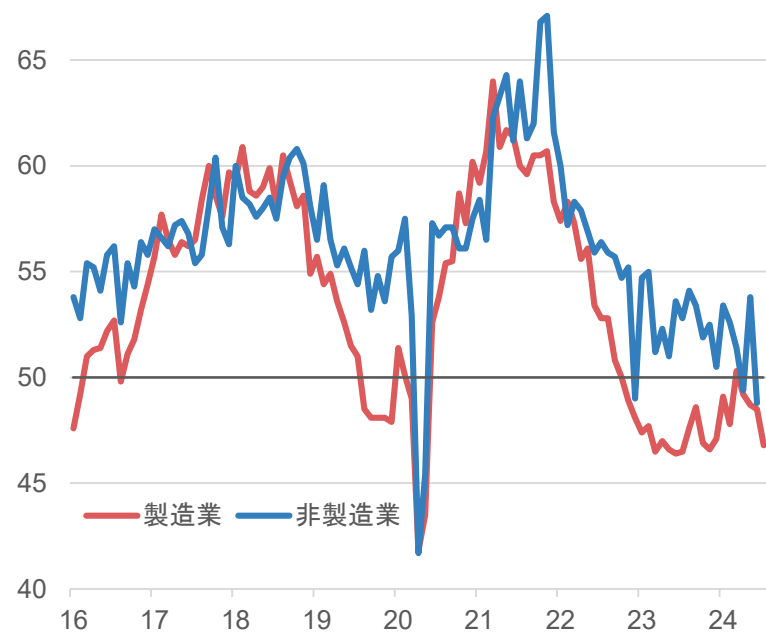


(出所)米商務省

(年、四半期)

## ISM景況指数

(%)



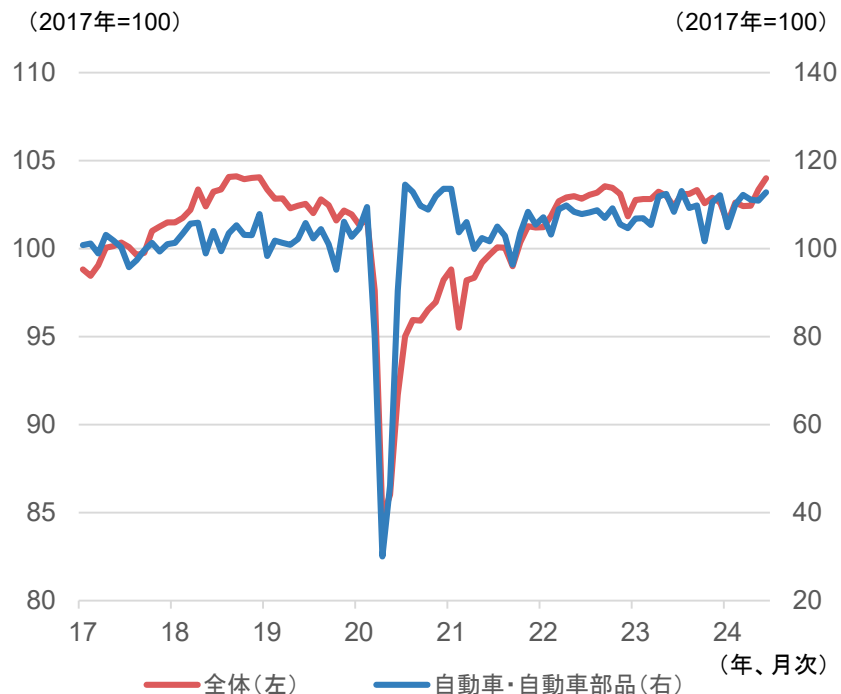
(出所)米供給管理協会

(年、月次)

# 生産、雇用増加も、失業率は上昇

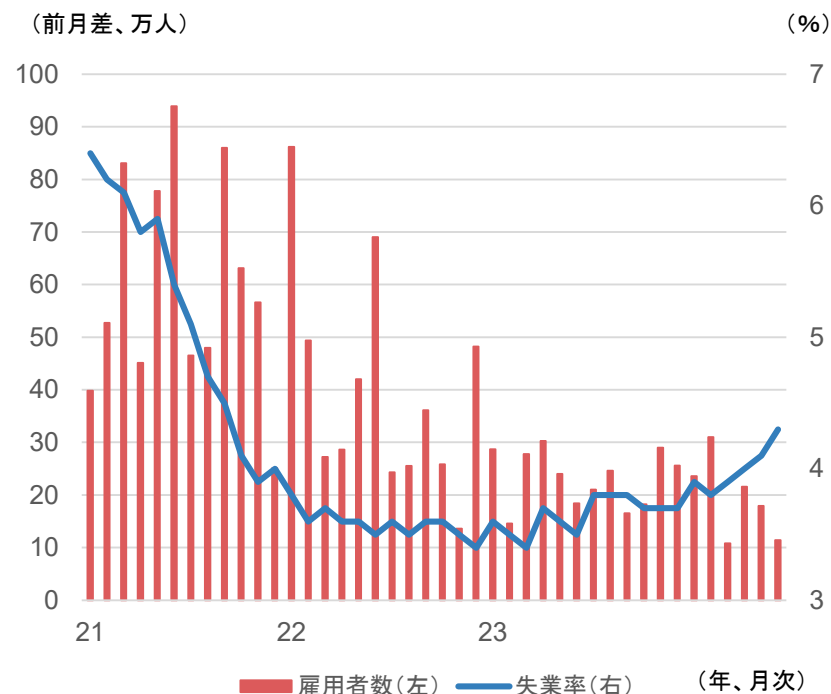
- 6月の鉱工業生産は前月比0.6%増と3ヶ月連続で増加した。自動車・部品が同1.7%増加したほか、猛暑の影響で電力などの公益も同2.8%増加した。設備投資動向を示す6月のコア資本財出荷は同0.1%増と2ヶ月ぶりに増加した。
- 7月の非農業部門雇用者数は前月差11.4万人増加した。教育・医療(同5.7万人増)、建設(同2.5万人増)、娯楽・宿泊・飲食(同2.3万人増)が雇用増をけん引した。失業率は4.3%と同0.2%ポイント上昇し2年9ヶ月ぶりの水準に悪化した。失業者が同35.2万人増加したことなどが失業率を押し上げた。

## 鉱工業生産



(出所)米FRB

## 雇用



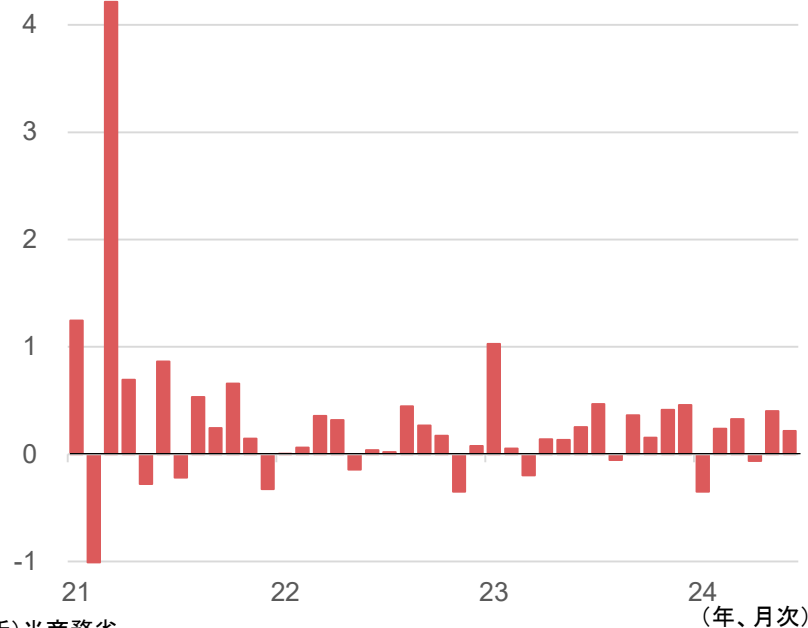
(出所)米労働省

# 消費も増加、物価上昇率は高水準ながらも鈍化傾向

- 6月の実質個人消費は前月比0.2%増加した。自動車などの耐久財消費が同0.2%減少したが、非耐久財消費が同0.5%増、外食、宿泊などのサービス消費も同0.2%増加した。
- 消費者物価(エネルギーと食料品を除くコアベース)上昇率は、6月は前年比3.3%と3年2ヶ月ぶりの水準に鈍化した。FRBが重視する個人消費支出物価指数(同)上昇率は、6月は同2.6%と3年2ヶ月ぶりの水準に鈍化した前月と同水準であった。いずれも水準は依然として高いものの鈍化傾向が続いている。

## 実質個人消費

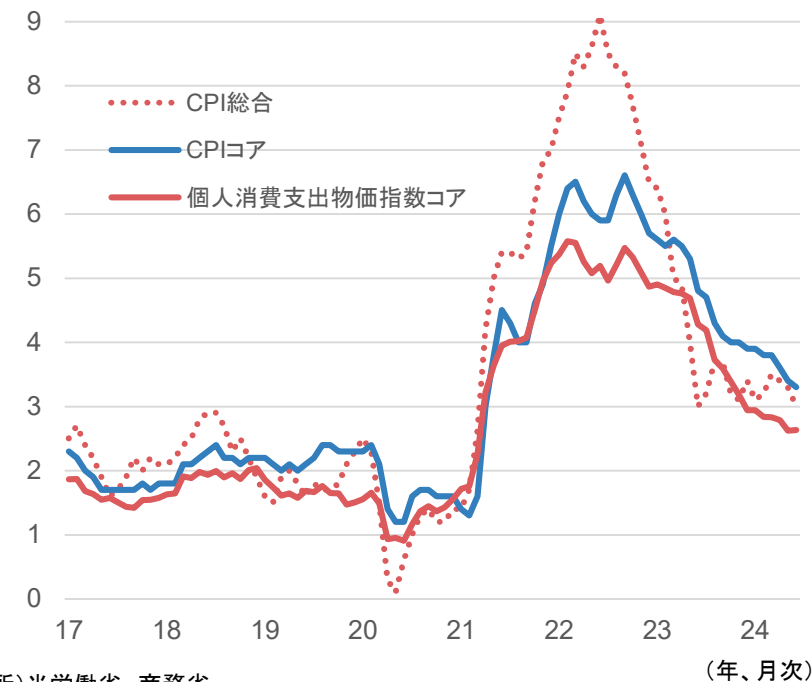
(前月比、%)



(出所)米商務省

## 物価

(前年比、%)

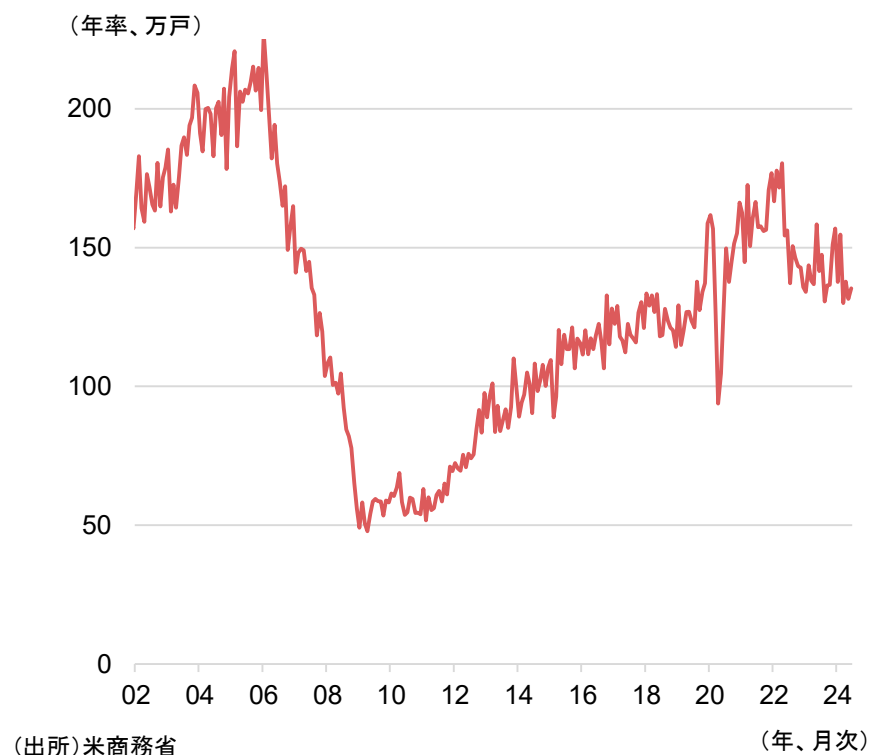


(出所)米労働省、商務省

# 住宅着工は小幅増、住宅価格は上昇が続く

- 6月の住宅着工件数は年率135万戸とおよそ4年ぶりの低水準となった前月から小幅な増加にとどまった。ローン金利の上昇が再び顕著になっていることが住宅着工の抑制要因となっている。
- 5月の住宅価格指数は前年比5.9%上昇した。上昇は11ヶ月連続となったが上昇率は2ヶ月連続で鈍化した。米国では住宅の供給不足が根強く、住宅価格は今後も上昇が続く見込みである。

## 住宅着工件数



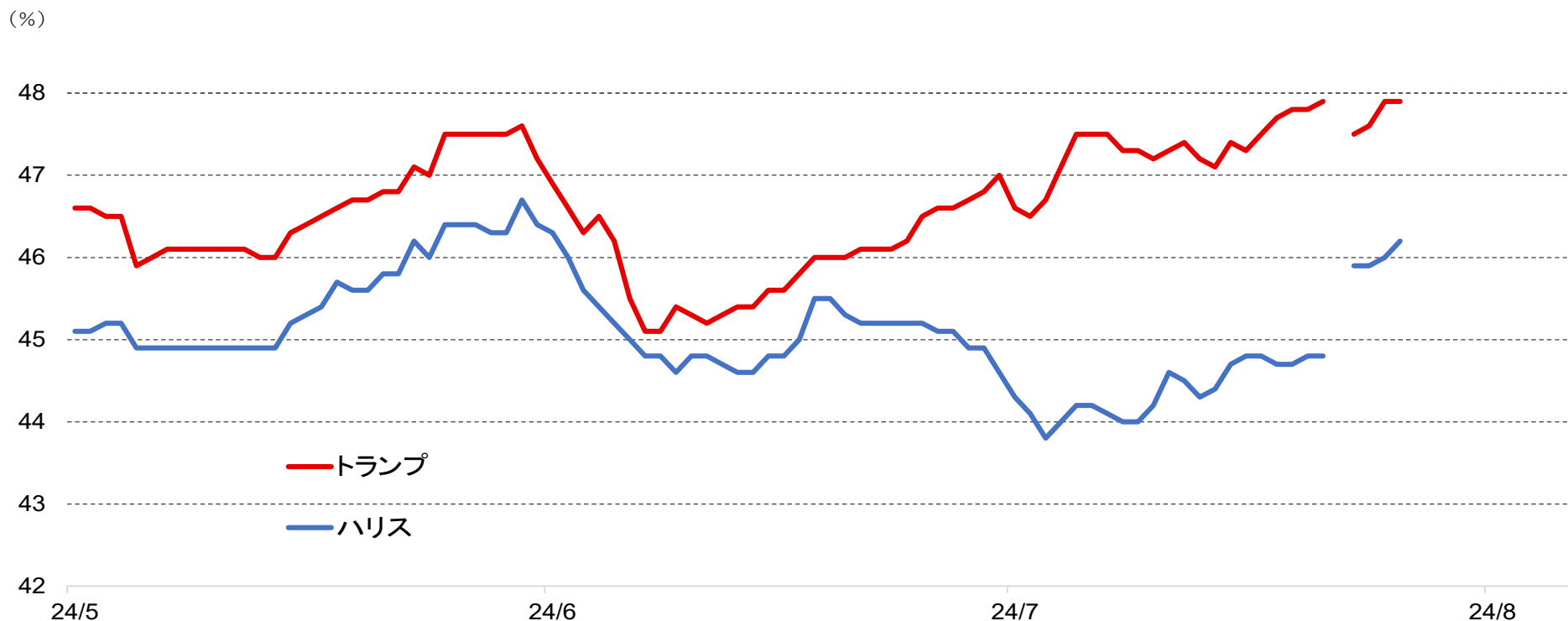
## S&Pコアロジック・ケース・シラー住宅価格指数



# 民主党、大統領候補にハリス副大統領を指名へ

- バイデン大統領が米大統領選挙戦を撤退、ハリス副大統領が民主党の大統領候補に指名されることが確定した。暗殺未遂事件で、トランプ氏再選がほぼ確実との高揚感が広がったものの、民主党候補がハリス氏に替わったことを契機に選挙戦の構図が一変した。最新の世論調査ではトランプ氏がやや優勢とはいえほぼ互角の支持を獲得している。
- ハリス氏は、女性・黒人層に強みを持っており、トランプ氏とは対局の政治的位置を占めている。8月の民主党大会での副大統領候補の選出などを契機に、ハリス氏が女性、黒人、若者票をどこまで取り込めるかが今後の焦点である。

## 世論調査 ～ トランプ、ハリスのいずれに投票するか



(注) 各種世論調査の平均値

(出所) Real Clear Politcs

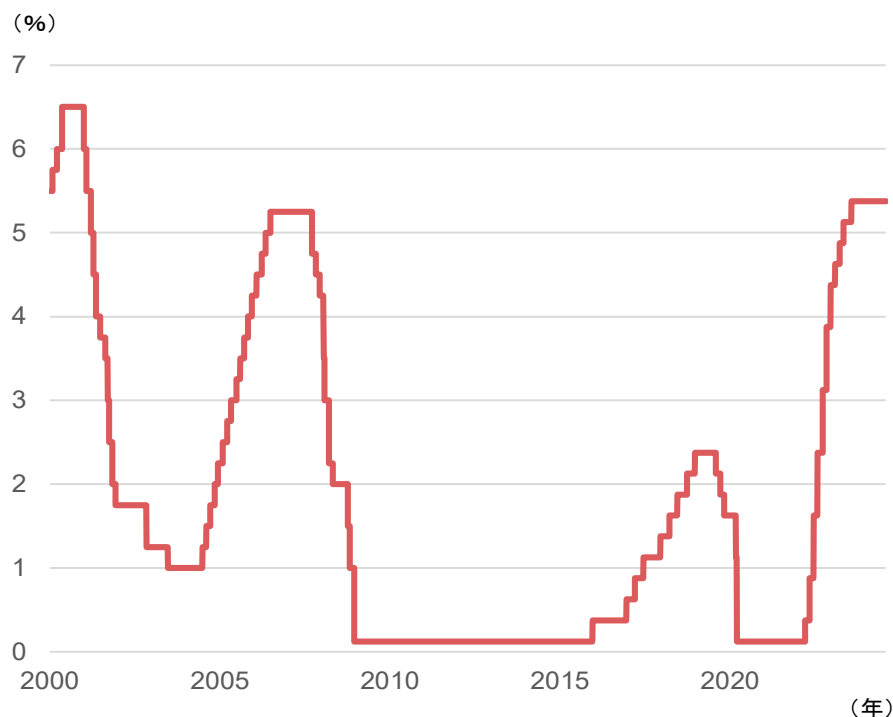
Mitsubishi UFJ Research and Consulting

(年/月、日次)

# 金融政策：利下げは9月開始の公算、景気減速懸念もあり利下げペースが焦点に

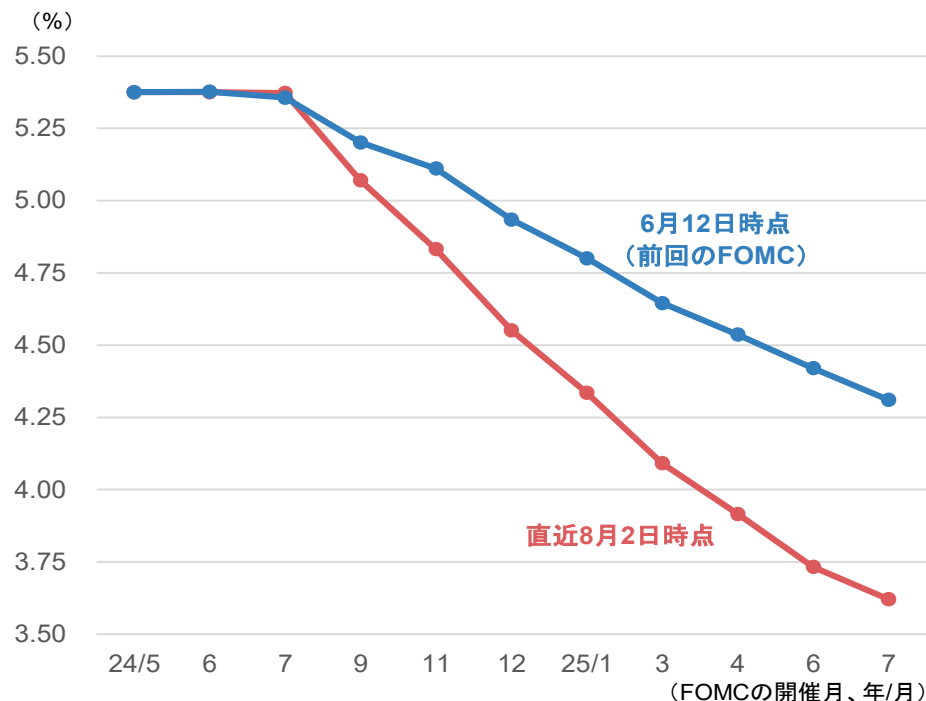
- FRBは7月30、31日に開催した連邦公開市場委員会(FOMC)で、政策金利であるFF金利の誘導目標を5.25~5.5%に据え置いた。政策金利の据え置きは8会合連続。パウエル議長は会見で、次回9月会合での利下げ開始を示唆した。
- 米金利先物の値動きからFOMCごとの政策金利を予想するシカゴマーカントイル取引所の「フェドウオッチ」によると、消費者物価統計が市場予想を下回ったことなどから、各FOMCごとの予想金利は、前回6月のFOMC会合時と比べ低下、向こう1年間で1.75%ポイント程度の利下げが織り込まれている。足元では雇用統計で失業率の上昇が続くなど景気減速懸念も強まっており、9月の利下げ開始後の利下げペースが焦点となる。

## 政策金利



(出所) FRB  
Mitsubishi UFJ Research and Consulting

## 金融市場における各FOMCの金利見通し



(注) 各FOMCごとの利上げ確率をもとに計算した加重平均値  
(出所) シカゴマーカントイル取引所

## ご利用に際して

---

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。



(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 細尾

TEL: 03-6733-4925 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー